

○北村薫子* 磯田憲生** 梁瀬度子*

(*武庫川女大 **奈良女大)

【目的】 建築仕上げ材の質感評価において分離して考えることのできない表面の色の影響をふまえた上で、様々なテクスチャーを有する建築仕上げ材の質感評価を検討することを試みる。これまでに行った無地・無光沢の平滑な色票を用いた実験¹⁾から得られた色と質感評価の関係をもとに、建築仕上げ材の質感評価の特徴を考察した。

【方法】 内装を無彩色とした実験室内において、被験者の正面に観察距離 40cm で試料を呈示し、ME 法により光沢・粗滑・温冷・柔硬・乾湿の尺度についての評価を求めた。試料は表面が一般的なテクスチャーであるサンドペーパーおよび一般的な建築仕上げ材の計 68 種類とした。色相は N および R~YR~GY, 明度は 3.8~9.3, 彩度は 0~5.4 の範囲に分布していた。照明は天井拡散光 (5000K) とし、試料上鉛直面照度を 650lx とした。また、試料には触れないこととした。

【結果】 御影石・レンガ・塗り壁等は色票に対する評価と類似する傾向があった。一方で、軽金属・ガラス・ビニルシート等表面が平滑な材料、カーペット類等凹凸が比較的大きい材料、木目模様のある材料は色票の場合と異なる評価の傾向が認められた。色の影響を受けにくく、主に表面のテクスチャーによって質感を生じさせる材料は、表面の凹凸や形状等テクスチャーを構成する要素や模様パターンが比較的小さいか、逆に大きいものであると考えられる。

1) 北村薫子他：内装材のテクスチャーが視環境評価に及ぼす影響（第 4 報）単純なテクスチャーにおける質感に及ぼす色と粗さの影響の定量的検討，日本建築学会大会梗概集，D-1 環境，pp425-426